

大地の成り立ちを知ろう

地球や地域の成り立ちなどを観察するのに適した自然公園「ジオパーク」。そのひとつである三陸ジオパークが、9月24日で日本ジオパークに認定されて2周年を迎えます。そこで今号では、本町のジオサイトのひとつ「豊間根川」をピックアップ。その見どころなどを紹介します。

◎地層が織り成す見事なしま模様

溪流釣りで有名な豊間根川。その上流の林道沿いに、しま模様の

岩肌が大きく露出している場所があります(表紙参照)。これがジオサイト「豊間根川」です。厚さ数メートルの地層が重なってできたはつきりとした模様が、本

ジオサイトの大きな見どころ。そしてこれには、ある秘密が隠されています。

◎ハワイ沖の海底地層が岩手県沿岸北部を作った!?

しま模様を形作っている厚さ数メートルの地層は、今でいうハワイ辺りの海底深くにプランクTONの死骸が積もってできた、2億年ほど昔の海底の姿です。その海底の地層が海洋プレート

の動きとともに運ばれ、海溝で大陸プレートの下に沈み込みます。その際、海洋プレート上の地層の一部が、大陸側にこそぎ取られてくつき、大陸の一部になりました。そのくつついた地層が、後に隆起して、現在豊間根川流域で観察できるように



岩手県地学教育研究会

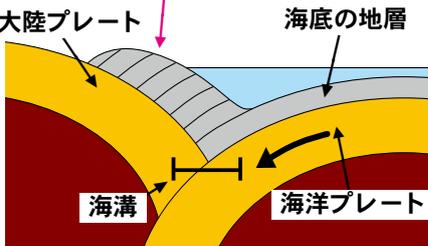
佐藤 公彦さん(43)

INTERVIEW

三陸ジオパークは、特徴的な地形・地層を見ることができポイントが多いため、地球の成り立ちを知る上で貴重な存在となっています。中でも、今回訪れた豊間根川上流は、泥質とチャート(海底に積もったプランクTONの骨格が、長い年月圧力を受けることによって石化したもの)の層が見事に表れていて、「地球が動いている」ということを目の当たりにすることができます。

三陸ジオパークの活用を考えた時、専門的な知識が必要とされたり、訪れるのが困難な位置にあたりするジオポイントを、どうやって一般の方が気軽に学べる場にするか、という部分が重要になってくると考えています。

豊間根川上流で見られる地層
※岩手県沿岸北部



海底の地層が大陸にくっつく過程

豊間根川上流を訪れてみての感想



福士友梨佳さん(15)

小山田友奈さん(14)

小山田さん：2億年以上昔の海底にあった地層が、町内で、しかも陸上で見られることに驚きました。説明用の看板を設置したり駐車場を造ったりするなど、学びやすい環境を整えれば、人もたくさん来るようになると思います。

福士さん：まずは「ジオパーク」とは何かを周知するのが大切だと思います。今回、豊間根川上流のことを学び、他のジオサイトにも興味が湧きました。近くに遊べる場を作ったり、グッズなどを配ったりすれば、楽しく学べそうですね。

なつたのです。(左上図参照)。この辺りで、暖かい浅い海にすむサンゴなどからできた石灰岩が見られるのも、同様に海洋プレートが運んできたからです。

の地・岩泉町の茂師海岸、三陸沿岸とは切り離せない津波の歴史を物語る存在としての宮古市・田老の防潮堤など特徴的な場所となっています。お出掛けの際には、お近くのジオサイトに足を運んでみてはいかがでしょうか。

◎他のジオサイトにも目を向けてみよう

三陸ジオパークには、48カ所のジオサイトが設定されており、地形や地層のほか、歴史、文化、産業など、大地と人々のつながりを学べるジオサイトがあります。

◆◆◆
今号の表紙は「豊間根川上流」。これは本町、田野畑村、岩泉町、宮古市、大槌町、釜石市の6市町村が連携した「三陸ジオパーク2周年」企画として行ったものです。各市町村の広報9月号の表紙でそれぞれのジオサイトを

世界遺産にも登録された釜石市の橋野高炉跡は、産業の成り立ちを学ぶ上でも貴重な存在。他にも、日本初の恐竜化石発見

を取り上げます(大槌町は9月7日号、釜石市は9月15日号)。